

## 往復書簡

今回からは、竹崎 修央氏（高知県、(有)竹崎農園）と当機構理事長の高木勇樹との往復書簡が始まります。

拝啓 高木 勇樹様

桜も散りいろんな草花が咲き始め春が来た事を感しながら農作業をしております。

今年、高知での桜の開花が、全国一番にならなかったのが残念です。去年よりだいぶ桜の開花が早いように感じます。また、東京と開花時期も満開時期もほとんど変わらないように感じました。これも少し異常気象なのでしょうか。

先日久しぶりにJ・PAOの会（トップマネジメントセミナー）で高木様にお会いしました。お元氣でお変わりなく良かったです。

高知県では、早くも水稲の田植えが始まりました我が家でも田植えをしております。家の本業はハウスでの茄子、ピーマン栽培がメインで、春になると収穫量も増えて忙しくなります。この時期は生姜の定植、田植え、果菜類の収穫といくら仕事をやっても終わらないくらいあります。また仕事以外にも子供の学校行事クラブ活動の世話などがあり、体がいくつも欲しいくらいです。

いくら忙しくても寝てるわけにはいかないので頑張るしかありませんが、最近年のせいか体が思うように動きません。それなら頭を使えばいいのですが頭もよくありません（笑）。

今農業をされていて若い頃のことを考えるときがあります。就農したての頃（二十五年前）は、あと十年したら農業は良くなると言われて農業を始めましたが、そんなに良くなかった感じがしません。むしろ悪くなってる感じがです。自分はいろんな会で全国のいろんな方と話す機会があり、勉強もできるの

で、わが家はそんなに悪く感じませんが、全体を見るとどうなんでしょう。

やる気があつて勉強する人はこれから良いと思います。合理化規模拡大は必要な事だと思えますが、小さい田舎の集落を守るにはある程度の人間が必要だと思います。地域を守っていくための小さい農家はこれから生き残っていくのでしょうか？

四十年前の田舎の生活ができたらいいなと思うこの頃です。

高木さんはどう思われますか？

敬具

平成二十五年四月吉日

竹崎 修央（たけざきのぶお）

有限会社竹崎農園（高知県）  
一九六八年 高知県安芸郡芸西村生まれ  
一九八七年 タキイ園芸専門学校卒業  
一九八七年 就農  
現在（有）竹崎農園でナス、ピーマン、ニラ、シヨウガ、マンゴーを生産しております。



拝復 竹崎 修央様

東京も、目に青葉の爽やかな季節となり、街路では、色とりどりのつつじ、純白のゆきやなぎなどが咲き乱れ、移ろいの早さを実感する。今日この頃です。

私も、三月八日のセミナーで貴兄にお会いし、その遅しさに圧倒されました。

私のふるさと群馬の田植えは、多くは五月連休明けですから、さすが二期作も可能といわれる高知ですね。

農業はそれぞれの地域の地理的、自然的条件を生かしながら行われるものですから、温暖な御地が今忙しい最中であることはよく分かります。

また、仕事以外の子供さんの活動の世話などは地域のつながりに大事なことで、これに積極的に関われるのは、正に私よりずっと頭もからだも柔軟な貴兄の特権だと羨ましい限りです。

十年前と今と比べて、農業がどうなったかというのは、どういう切口でみるかによって違うと思えます。

農業全体をみる限りでは、農地も、人（特に就業者の平均年齢）も、生産額どれひとつとっても悪くなっています。一方、農業で自らの所得の大宗を稼いでいる方々（経営体）の数は四十万程度と横ばいですが、農業法人数は一万二千八百社と飛躍的に増え、一社当たりの販売額が億を超すものも珍しくなくなっています。

成功事例で共通しているのは、面積規模より需要を前提にした供給（加工）を行っているか否かです。難しくいえばマーケットインの経営を行っているというのでしょうか。

農業が産業として持続する経営が行えるようにする制度システムを構築し、集落に商工と連携す

る雇用の場を有する農業経営体が出来るようにし、貴兄が言われる「小さい農家」も自ら農業を続けるか、（家庭菜園規模の農地を残して）貸すか、コストパフォーマンスから自らの先行きを判断するべきではないでしょうか。

集落は、今でも老壮青、老若男女いろいろな職業の人で構成されていると思います。このような集落（農村）、地域、環境（多面的機能）政策は、先ほどの農業経営政策とは基本的には一線を画した政策として展開すべきだと思います。それによって貴兄が望む十年前の田舎が新しい姿でよみがえると思えます。

この考えを貴兄はどう思われるか、その回答を次回楽しみにしています。

平成二十五年四月吉日

敬具

## 高木 勇樹（たかぎ ゆうき）

一九四三年 群馬県生まれ  
一九六六年 群馬県生まれ  
一九九八年 群馬県生まれ  
二〇〇二年 群馬県生まれ  
二〇〇三年 群馬県生まれ  
二〇〇七年 群馬県生まれ  
現在、NPO法人日本プロ農業総合支援機構副理事長  
活動に尽力。

一九九八年 農林水産事務次官、二〇〇一年退官  
二〇〇二年 農林中金総合研究所理事  
二〇〇三年 農林漁業金融公庫総裁、二〇〇八年同公庫退任  
二〇〇七年 NPO法人日本プロ農業総合支援機構副理事長  
現在、NPO法人日本プロ農業総合支援機構副理事長などの立場から、わが国農業・農村の活性化、食の問題の解決に向けた活動に尽力。

